



写真27:歯科はインプラントに力を入れているようだ。壁のボードには、唯一このブース向けの「避難経路図」だけが掲示されている。



写真28:院内避難経路図。韓国の病院でとても感心するのは、どの病院を訪問してもフロアや廊下だけでなく各病室にも必ず避難経路図が掲示されていることだ。消化器も院内至る所にある(スプリンクラーは不明)。これは日本の病院が是非に見習うべき点だと考える。ナ・ウン病院の歯科では、診療ブースごとの避難経路図が掲げられていた。写真は歯科第7ブースの避難経路図。



写真29:夕方6時ごろの療養棟のナースステーション。きちっと整理・整頓・清掃がなされ清潔であったのかとても印象的だった。来客である私たちに対する職員の礼儀(しつぽ)も素晴らしい。



写真30:病棟のナースステーションと廊下。日本の病院との「違い」はどこか。



写真31:厨房(奥)と適温(温冷)配膳車



写真32:病院食の食器。銀器(ステンレス製)でかつ全ての器に蓋を被せた食器を見た時には「うわぁ、韓国だ!」と思った。ワゴン最上段のトレイにある柄の長いスプーン(スッカラツ)と箸も銀器である。食器に関しては韓国と日本の病院は全く違う。実に面白い。



写真33:PT(理学療法)ルーム。外来患者用(左側)と入院患者用(右側)が別の部屋になっている。



写真34:外来用リハビリ(PT)ルーム。多くのスポーツ選手が理学療法を利用しているそうだ。スポーツジムのなりハビリルーム。



写真35:Thermoelectric therapy。高周波電熱療法と訳すのだろうか。腰部を温めて治療する療法。カイロプラクティックの一療法なのかも知れない。



写真36:避難経路図:韓国の病院の各病室や廊下に必ず、そして至る所にきめ細かく掲示されてある避難経路図と消火栓、消化器の所在地。どうして日本の病院にはないのだろうか。これは韓国の病院に学ぶべき項目。この写真はCRM室の避難経路図。左下に「119」の電話番号も。



写真37:皮膚科と美容外科(ビューティーセンター)受付。



写真38:院内コンビニ。ピンクの包装紙で包まれたバスケットや赤いリボンなど、韓国のコンビニの店内の色使いは明るく、華やか、艶やかだ。



写真39:会計。カウンターに置かれたタブレットは何に使用するのか、不明。



写真40:8人部屋の病室。韓国では8床室の病室でも良かったが、最近「病室は6床以下、ベッドとベッドの間は1m必要」へと、規制が厳しくなってきた。補助金はないため6床以下へ改装・改装する費用は自己資金で賄う必要がある。また病床数を減らすと収益が減少してしまう。病院経営の上では深刻な課題となっている。



写真41:(おそらくは)療養病床のナースステーションの風景。たくさんさんの張り紙が貼られている。



写真42:救急救命室(ER)。ナ・ウン病院のERは大学病院でも難しい優秀賞を3年連続貰っている。韓国の救急車システムは日本と同じ。電話も119。他の病院への患者搬送用に自院の救急車をもっているが、ナ・ウン病院は院内で各種の症状に対応できるので、他院に搬送することがない、ということで有名だそうだ。



写真43:ERの受付



写真44:ERの処置室。韓国の病院では、仕切りカーテンに柄がついているのをよく見た。日本の病院の仕切りカーテンは単色しかない。ベッドのシーツにも絵柄があった(写真40)。これはなかなか素敵だ。